



里は春、山上は独占状態の大斜面！

飯豊連峰

飯豊本山周辺滑降山スキー

石井

【日時】2007年5月3日(木)～5日(土)

【メンバー】石井(L)、木下、田辺(利)、高柳

飯豊本山周辺の山スキーは4年前のGWにも計画し、この時は川入から三国小屋経由で切合小屋に入り、ベースにして駒形沢や御秘所沢を滑った。他人のシュプールに荒らされていない雄大な斜面が一面に展開する素晴らしさは周知であったが、三国小屋前後のヤセ尾根と雪庇がネックであった。この部分を解決する山形側・大日杉からのアプローチを考えたのは、私だけではなく、大ベテラン・木下さんも同じであった。本社の沢、ピンカガグチ沢など、本山周辺の源頭部を滑りまくろう、と田辺(利)さん、高柳さんが加わって今回の山行となる。

5月3日 晴

前夜は磐梯河東ICより大峠経由で大日杉まで入ったが、東北道下りの渋滞もあって、着いたのは2時を過ぎていた。それでも立派な小屋に入って一杯やって、ゆっくりと休んで、起床は7時前。今日は切合まで約1200mを稼いで小屋に入れればいいので、まあそれほど慌てることはない。

のんびりと支度をして、見渡す限り雪の無い登山道に取り付く。灌木帯の斜度が増して鎖のある岩場にさしかかると、尾根に出てザング坂の標識を見る。いくらか歩きやすくなった尾根道に行くが、周りの景色といい、とてもスキーに向かっているとは思えないような雰囲気だ。だが、今年の積雪の特徴ともいえるべきか、900m辺りで急に雪が現れてスキーを着けると、一度は外したものの、1150m辺りからはほぼしっかりと繋がっていた。4年前はブナの新緑の中を登っていたから、それよりはずっとマシなような気がする。

尾根が広くなり、鍋越山からの稜線が合わさるのが滝切合で、小ピークを左から巻いて地蔵岳への尾根に繋げる。地蔵岳は南面をトラバース、その後はアップダウンのある稜線を雪庇をからめて進む。大又沢を挟んで正面に対峙する飯豊本山が望まれ、本社の沢や大岩沢の大斜面が素晴らしい。天気も上々、カルピスカき氷が美味い。田辺(利)さんのペースが上がらないが、GW前半に矢野や田村さんに苦しめられた高柳さんや石井には丁度良かったかも？

所々スキーを外す必要はあるものの、概ねシールで歩けるので、縦走パーティーよりも速いペースで進む。1590mピーク先で御沢へ僅かに下り、対岸の切合尾根(通称)に取り付けば、小屋までは最後のひと頑張り。既に縦走パーティーが20名近く中にいたが、広めの小屋なのでスペースは十分確保。トイレはあるし、水も西面に少し下る



と融雪水が得られ、水作りも不要だ。ザックを軽くして草履塚へ登ってひと滑り。前回はその余裕はなかったので、ちょっとお得感。

5月4日 曇のち晴

そこそこ早起きして支度。だが、目指す飯豊本山方面はガスがかかり、いまいちの天候状況。天気予報も踏まえ、本山へベースを上げるのは止めて、ダイグラ尾根北西にある別天地・秋田のぞみの平を目指す切合ベースのプランとする。

草履塚をシールで登り、その先はスキーを括り付けて本山を目指す。御秘所の岩場は大したことないが、兼用靴では縦走のように身軽にはいかない。登り返しは御秘所沢寄りにシールでジグを切って登る。少し傾斜があるが、それでも2時間足らずで本山小屋に着く。

小屋での天候待ちに痺れを切らして出ると、ようやく視界が開けるようになり、本山ピーク南をトラバースして一気に駒形山から御西小屋へ向かう。この辺りは地形も緩やかで、特にスキーの機動力を発揮・実感できる部分だ。大日岳をバックにした御西小屋は建替えられて間もないらしく、実にきれい。ここをベースにしたら心ゆくまで周りの大斜面を堪能できるだろうに…。残念ながら麓からは一番遠い位置なのだが…。

御西岳から駒形沢源頭の大斜面に滑り込む。斜度は緩く、程よいザラメでそれこそグレンデのような状態なのだが、シュプールなど全く無い。前回も同じ所を滑ったが、やはり素晴らしい、としか言いようのない斜面で、思わず歓声を上げてシュプールを刻む。今回は沢底まで行かずにトラバースに入り、沢をいくつか回りこんで秋田のぞみの平を目指す。やや急な斜面を滑り込めば、急なダイグラ尾根の中腹に、そこだけ緩やかな雪原を広げている秋田のぞみの平に降り立つ。眼前には檜山沢を挟んで烏帽子岳が大きく、御西岳～本山～ダイグラ尾根に囲まれた箱庭のような別天地、積雪期ならではの行程だろう。

お楽しみ後はダイグラ尾根から本山へ650mのややきつい登り返し。尾根に出るまでがきつく、出てからも斜度があつてペースは上がらないが、雪は山頂150m下まで繋がっていた。ようやく本山へと登り返して、今回の山行での初のピークらしいピークに到達。風が少し強かったが、連峰の展望も楽しむことができた。

時刻は2時を回ったが、登り返しは1時間強と踏んで、一ノ王子から御秘所沢へ滑り込む。ここも4年前に滑ったが、斜度も手頃で谷もU字で広く、すこぶるご機嫌なスキーが楽しめる。振り子滑りを楽しみながら流していくと、少しデブリが現れてほどなく御沢出合だ。

御沢に入りこれを詰めていくと、滝が出ているが容易に左から巻ける。二俣を左に入れてひと登りすれば、見覚えのある切合尾根へと合流する。小屋までは30ほどの登り、日帰り装備とはいえ今日は1500m以上登ったので、よく遊んだ一日であった。

5月5日 曇



予報通りというべきか、今日も朝の天気は昨日同様、さえない。しかも6日以降、確実に悪天へと向かっていくので、本日中に下山することにする。西面への滑降も考えられなくはなかったが、時間がかかりそうなので結局、3度目の草履塚の登りへと向かう。御沢出合へと延びる東面の尾根もまた、積雪に恵まれてゲレンデのような斜面で、小屋をベースにすれば半日とかからないお手軽なルートである。波打ちも少なく、コントロール自在な快適ザラメに各々シュプールを描いていくと、これまたあつという間のお楽しみタイム。かくしてこれまた3度目の切合尾根の登り返しとなって小屋へと帰着する。

荷物をまとめ、帰路は種蒔山へと登る。シールを外し、御沢源頭をひと滑りすれば、あとは地蔵山へと続く尾根を緩くアップダウンしていくのだが、やはり下りはスキーの機動力が生きる。ひと登りして飯豊本山に別れを告げ、地蔵岳をトラバース、滝切合から雪の見えない尾根へと滑り込んでいく。やや混んだ急斜面のブナ森から、最後はスキーでようやく繋げられるような雪堤を行き、どうにかシール歩行開始地点まで根性で滑る。あとはスキーをザックに括り付け、兼用靴で歩きにくい登山道を1時間くらい歩いて大日杉まで下るのみであった。

スキーや靴を沢で洗い、荷物をまとめたらあとは帰るのみ、とはいかない。今度は東北の春を楽しまなくちゃ。春浅き山里の風景を堪能しつつ車で移動し、林道の端やらを物色して回ったら、種類こそ少ないものの、結構な山の幸をGETすることができた。となれば消費しなくては楽しみも半減だろう、ということで、風呂から出たらテンプラ粉と油を買いに雑貨屋へと走り、近くの森林公園で打ち上げの宴会へと進むのであった。結局帰京は翌朝発となったが、渋滞にも巻き込まれず、かえって良かったようだ。

GWの飯豊は北アルプスの喧騒や渋滞などとは無縁の、山スキーの別天地と呼ぶにふさわしい。滑降ルートもまだまだ未知数で、開拓の楽しみもある。しかも今回は山の幸の宴会までついて、十二分に満足できた山行だった。

そして結局、山行中スキーヤーには誰一人として出会わなかった。

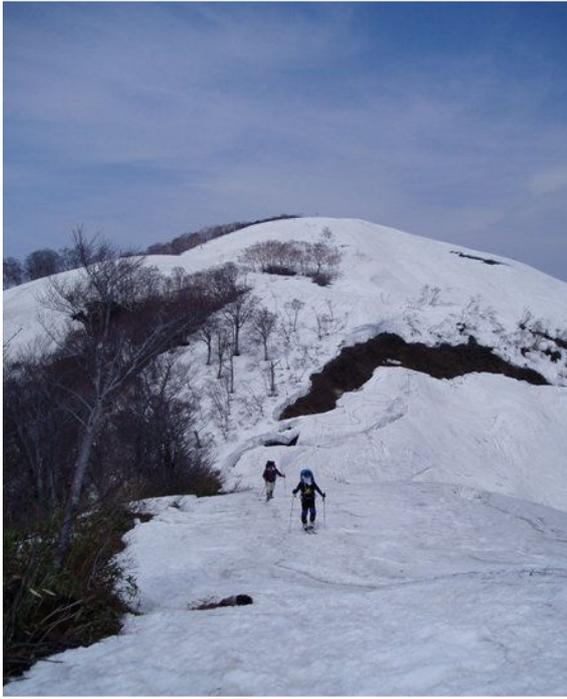
【行程】

5月3日 大日杉 (8:30) - 滝切合 (11:30/12:00) - 切合小屋 (14:50)

5月4日 切合小屋 (6:45) - 本山小屋 (8:30/9:10) - 御西小屋 (10:00/20) - 秋田のぞみの平 (11:10/35) - 飯豊本山 (13:45/14:10) - 御沢出合 (15:00/20) - 切合小屋 (16:20)

5月5日 切合小屋 (9:25) - 地蔵岳の肩 (11:25/45) - 大日杉 (13:25)

【地形図】 1:25000 岩倉、大日岳、飯豊山



左上：地藏岳～切合小屋の稜線を行く
右上：駒形沢源頭の大斜面を滑る木下さん
右中：ダイグラ尾根への登り返しから秋田のぞみの平（バックは烏帽子岳）
右下：切合尾根下部大斜面の滑降
左下：御秘所沢の滑降。左手上の岩場は御秘所と草履塚。